

件名: 新制作展鑑賞会の模様 (高木佑一筆)

10月2日(月)恒例の新制作展の鑑賞会、11時集合、五十嵐画伯、入選おめでとうございます。

“恒例”と簡単に言ってしまうかもしれませんが、毎年こうして楽しませてもらえるのも、五十嵐画伯が入選を続けてくれるからこそ。感謝です。

わが磐城高校同期も古稀を迎えて、ますます盛ん、スポーツと芸術の秋を大いに満喫しており、今日はゴルフ組と鑑賞会組に分かれてしまい、鑑賞会参加は画伯を含めて4人。
(五十嵐画伯、添田、金成、高木・・・写真のとおり)

例年に比べるといささか寂しいですが、入場すればいつものごとく、五十嵐画伯の解説付きで、見事な大作の連続を鑑賞。

画伯の入選作品、モチーフはいつもと同じ「蜂」、表題は「巣領域」。相変わらず理解はできないまでも、特徴の黄色の変化、構図の違いなどには気が付いたので、若干見る目はついてきたかな？

画伯の弁では、2点の作品を出品して本人としてはほかの1点のほうがお気に入りだったとのこと。たっぷり2時間、鑑賞させてもらい、全員しっかりした足取りではありましたが、内実は足腰が悲鳴を上げ始めていたと見え、最後の彫刻展はいささか足早の感じもしました。

こんな状況ですから「上野飛鳥」まで足を伸ばす気力がなく、新美術館前の居酒屋「卯の刻」で、アルコールなしの極めて健康的な定食を食べ、次回はほかの行事と重ならないことを祈りつつ、再会を約して解散しました。

五十嵐画伯には引率ありがとうございました。

ますますのご活躍をお祈りいたします。
出席の皆さん、ご苦勞様でした。